

三重県の養豚場で豚熱を確認！（国内61例目）

12月29日、三重県伊賀市の養豚場において豚熱の患畜が確認されました。10km圏内に京都府南山城村の一部がかかります。

京都府ではワクチン接種をしていますが、野生いのししにおいては、府内でも豚熱陽性事例が多数確認されていることから、飼育施設への部外者の立入制限と車両・靴等の消毒、施設周辺の消毒やネズミ駆除、野生動物の侵入防止などの衛生対策も実施してください。

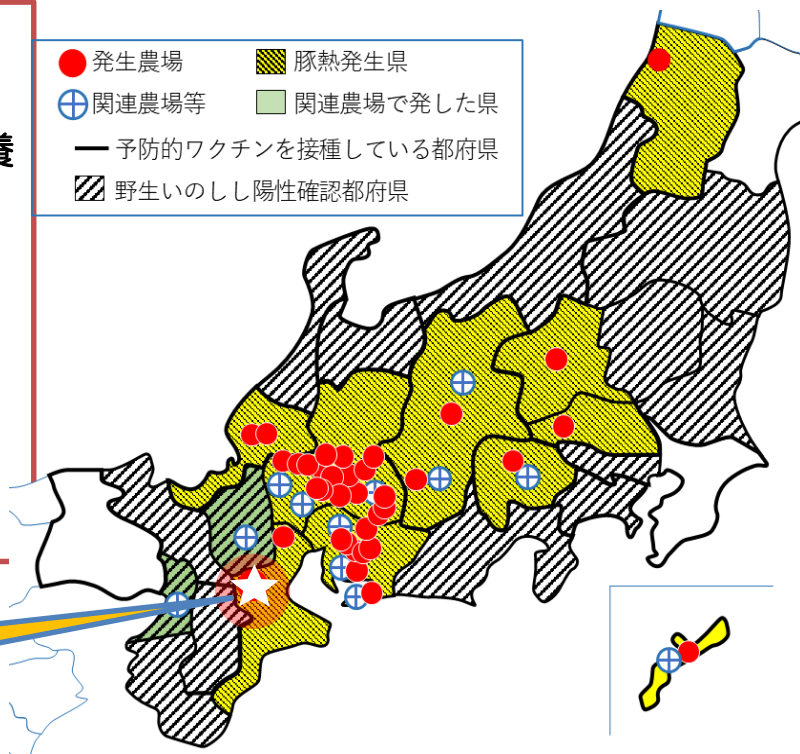
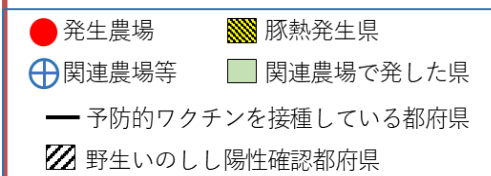
【61例目の概要】

◆発生農場

三重県伊賀市 6,600頭 飼養

◆経過

- ・12月28日、飼育豚の死亡数増加の通報を受け、三重県が立入検査。遺伝子検査陽性により豚熱の疑いを認めた。
- ・国で精密検査を実施し、12月29日、豚熱の患畜であると判明。



今回の発生農場

管内の飼育豚、いのししにはワクチンをしています。油断をせず、衛生対策をしっかりと行い、感染のリスクを下げましょう！

以下について、いまいちど点検をお願いします！

- ☑ 毎日、豚やいのししの健康観察をしてください。異常があればすぐ通報！
- ☑ 出入りする車両や飼育施設周辺の消毒を徹底してください。
- ☑ 飼養衛生管理区域専用の衣服・長靴を着用してください。
- ☑ ネットや柵、コンパネなどを活用し、いのしし、ねずみなどの野生動物の侵入や接触の防止対策をしてください。
- ☑ 肉及び肉製品が含まれている可能性のある飼料は加熱給与してください。

(攪拌しながら90℃以上60分以上又はこれと同等 以上)

※ 攪拌しながら90℃で60分以上、又は95℃で19分以上、100℃で6分以上

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

- ①ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。
- このため、ワクチン接種農場においても、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための、飼養衛生管理の徹底と豚に異状がみられた場合の早期通報が必要不可欠。

①免疫付与率80%

- ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。
- ・ ワクチンの抗体付与率は80~90%

②子豚

- 全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。
- ⑦ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない
- ④ 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現
 - ・ 用法・用量では、1~2か月齢での接種を推奨
 - ・ 現状、50~60日齢程度での接種が望ましい(牛豚小委議論)
- ② しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難

